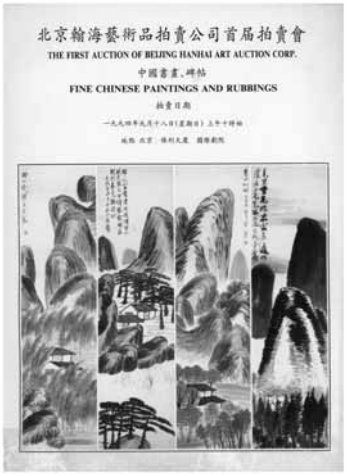
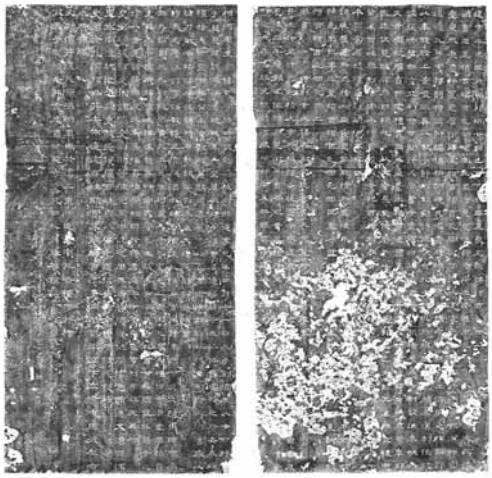
主図版・史晨碑

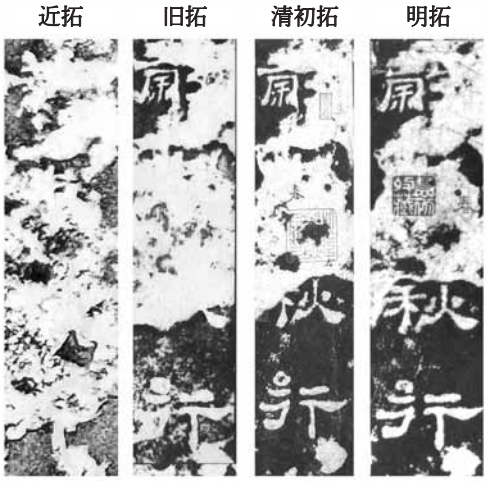
「落ち穂拾い記」⑫
『史晨碑』



図①オークション図録・翰海1994年



図②



図③史晨碑「出王穀春秋」部分
「秋」字の時代による変化

図④史晨碑
粗　拓調の比較　精

図⑤史晨碑題簽

羅振玉題簽(左)・王崇烈題簽(右)

日本では、オークションという売り立て方法は、馴染みがなかったが、中国では、90年代の始め頃から、西欧の方式を倣い書画古美術、古書籍などのオークション販売が始まり、近年は益々盛んになり、大小様々な多くの会社がある。日本各地でも中国人向けのオークションが開催されている。日本の古書の分野では、オークションとは異なるが、それに近い日本独自の入札による売り立て会がある。これらの売り立て方式は、売り物を手に取り確認することが出来る。書物や資料などを求めている者には、買う余裕がなくても直接手に取り丁寧に見ることが出来る。売り立ての前の展覧会は、実に楽しく、未知の資料などもあり、私には、勉強の宝庫のように思われる。こうした売り立て会で、入手した優れた碑帖を数件紹介しよう。94年の北京のオークションでの清初拓『史晨碑』が出品された(図①)。事前にその会社で丁寧に確認し、オークションには、北京の友人に依頼した。友人は、購入してくれたが、彼の話では、会場に出向き成り行きを確認し、競争になれば小生の予想価格では、絶対に買えないと考え、ただ成り行きを見ていたそうである。誰も手を出さないので不成立となり、後で直接オークション会社と相談して、予想価格よりも少し安く購入できたと知らされた。今から30年前の中国で、一冊の碑帖拓本の価格としては高く、多くの人に認知されていなかった。それ故、偶然なことから手にすることができた。史晨碑は、正確には一つの石碑の表に刻された『史晨奏祀孔子廟碑』(史晨前碑)と裏面に刻された『史晨饗孔廟碑』(史晨後碑)からなる(図②)。『史晨碑』は『礼器碑』とともに、漢の隷書の優れた手本として、古くから学ばれている。明拓や清初拓本は、前碑の「秋」字をほぼ見ることが出来る。明拓とされる旧拓は、「秋」がほぼ完全であり、やや後の清初拓は、「秋」の第1、2画部分が破損している。清朝後期には、ほぼ全体が破損して見ることが出来ない(図③)。入手した家蔵拓本は、「秋」が少し破損した清初拓であるが、拓調が丁寧な精拓であり、出版されている史晨碑の善本に比して、文字の字画が、丁寧に拓出されている(図④)。さらに、近代の名家・羅振玉や王崇烈などの趣ある書風の題簽なども付された善本である(図⑤)。

伊藤滋(書斎名・木鶏室)

書のひろば

理事長　下谷洋子

第77回全国学生書道展搬入・審査終了

第77回全国学生書道展は、10月20日が作品搬入で、審査は10月29日～11月3日にかけて行われました。

今回は半紙部の出品が増加し、半切½部が若干減少、ともに出品団体はほぼ変わらず両部門合わせて12,387点でした。

A賞は29日の「A賞選考」を経て、30日に選考委員6名により決定しました。半紙部門から100名、半切½部門から50名、またB賞以下は両部門合わせて6,543点が入賞しました。

全日本書道連盟令和7年度講演会開催

夢のあとさき―明末清初における伝統の継承と再編

台東区立書道博物館館長鍋島稲子先生

毎年秋は、書道関係の講演会が開催されますが、今年度は11月10日鍋島稲子先生によって、国立新美術館にて明末清初の書についての講演が行われました。

多くの書道団体の漢字部門では人気の高い通称明末清初の書ですが、一口に明末清初と言っていても、どういう時代で、その時代とともにどのような表現の書が流行したのかを、映像を用いて次のような観点から分かりやすくお話しいただきました。

第1章　爛熟と揺らぎの時代
　伝統と奇想派〈明末〉
　董其昌と徐渭

第2章　激動の中の表現
　遺民と弐臣〈明朝の王朝交代〉
　傅山と王鐸を中心に

第3章　八大山人
　静寂の中の深淵
　〈生誕400年記念〉

第4章　伝統の再編
　康熙帝と文人ネットワーク
　〈清初〉

おわりに八大山人へのオマージュ
　八大山人が日本に与えた影響についてなど。

（詳細は後日、全日本書道連盟の会報に掲載されます。）

公益財団法人書道芸術院通常理事会開催

11月23日、今年度第3回通常理事会が上野精養軒にて開催されました。

第79回書道芸術院展・第77回学生書道展（研究会・表彰式・席上揮毫会・受賞者による集いの会・ワークショップなど）、人事（昇格・移籍・退会など）について、令和8年度単位認定講習会についてを審議しました。

第79回書道芸術院展の「評論家の眼」は、柳澤朱篁先生（書壇院顧問）になりました。

他には、本院創立80周年記念事業の進捗状況なども報告しました。

（詳細は次号院報に掲載）

令和7年度書道芸術院創立記念日田村麗恵先生による講演会

今年度の創立記念日（11月23日）には、公益財団東京都歴史文化財団の田村麗恵先生による「現代の書の鑑賞をめぐって」の講演が行われました。

田村先生は日本美術史を専門とし、東京都美術館の学芸員として、2013から2020年〝TOKYO書　公募団体の今〟など幾つかの特別企画を担当し、芸術院の作家もお世話になりました。他にも様々な文化的企画などをされています。

今回は、多彩な企画活動をされる中で、書の鑑賞についてのお話を伺いました。詳細は1月号に掲載します。

精養軒地下1階での講演会

一般財団法人毎日書道会理事総務会開催

11月26日、如水会館にて毎日書道会今年度2回目の理事総務会が開催されました。

主な議題

1. 第76回毎日書道展の入場者等
2. 第77回毎日書道展の基本方針
3. 第77回毎日書道展

(1)日程

第77回毎日書道展から、公募の入選・入賞審査の方式が変わります。新方式では刻字以外の部門は、5月に未表装で入選・入賞審査を行います。これによって、審査の日程、会友作品の搬入がこれまでと異なります。

会友以上の出品者へは、詳細を毎日書道会報12月号でお知らせします。

(2)主要役員

実行委員長　永守蒼穹
審査部長　松井玉箏
総務部長　金子大蔵
陳列部長　小田川大岳
運営委員（本院関係）
近代詩文書部　飯沼恵鳳
大字書部　前田龍雲
前衛書部　山口仙草
各展実行委員長（本院関係）
中国展　名越蒼竹

4. その他

漢字書基礎基本講座(19)

種谷萬城

隷書4　禮器碑

禮器碑は後漢・永寿2年(156)に山東省曲阜の孔子廟に立てられ、現在も孔子廟内の『漢魏碑刻陳列室』に列置される。碑文は碑陽・碑陰・碑側の四面に刻された四面碑。碑文の内容は魯国の相・韓勅（字は叔節）が孔子廟を修理し、その祭器を修造して、礼楽を復興し、孔子の親族である顔氏と并官氏に対して免税の恩恵を与えた功績を後世に伝えるためのもので、紀功碑に属する。碑陰と碑側には立碑に関係した人の官職・貫籍・寄付金額等が列記される。

書は波磔のある隷書『八分隷』。細く引き締まった線を基調とし、表情豊かに払い出す装飾性に富んだ『波磔』や、微妙な太細の変化によって筆の運びを見事に表現した『点』、また同一文字を線の強弱や波法の違いにより形を変えるなどして、毛筆で書かれた細やかな動きを忠実に再現した刻法が見事。巧妙な筆遣いが生み出す、変化に富んだ美しい魅力に溢れる書は、謹厳典雅。後漢を代表する『八分隷』の最高傑作の一つ。

禮器碑　拓本

漢魏碑刻陳列室

禮器碑　同一文字　多様な字形

禮器碑　碑石

禮器碑　臨書「青龍在渚歎」

禮器碑　倣書「謹厳典雅」

禮器碑　基本点画

――基礎基本講座――

篆刻・刻字基礎基本講座(19)

後藤大峰

今回は刻字作品を制作する際、作品にする書体についてお話ししていきたいと思います。

現在は主に篆書体が主流で、ご存じのように篆書体には、歴史的に見て、〝甲骨〟に始まり〝印篆〟まで7種類に分けられます。

筆者の刻字作品は主に〝金文〟を使用致しております。これは所属社中の特徴が一番大きく所謂、師匠からの伝承的なものが大きいと思います。金文はどちらかと言いますと「図象」的な面で形が成り立っており、作品効果が良いと思います。

現代刻字では次に多いのが隷書、楷書、行書などで、中には近代詩、現代詩とも言うべき読み下し文の刻字作品も見られます。これは、それぞれの作家の好みですので自由であって良いと思います。

他に前回、刻字の国際的拡がりがあるという際に英字の作品もあるとお話し致しましたが、それも刻字の醍醐味の一つではないかと思います。

一つ言えますこと、刻字部門は多くの書体で作品が制作されているということです。「漢字部」は漢字「かな部」は主に平がな……ですが、刻字部は全ての書体で、ということになります。

考え方としては、何か変な感じですが、実際そのようになって展開致しております。

何か最後は纏まりのない話になりましたが、現代刻字作品の使用書体についてお話し致しました。

この篆刻、刻字基礎基本講座も20回目に突入していきますが、話の種がなくなってきております。今度はどうするか？

これから考えて参ります。失礼致します。

書道芸術院
令和の群像（2025）

谷田熾箋（大阪）

「師に感謝」

師は、玄遠社竹扇会の小伏竹村先生です。2022年2月22日、百歳個展を夢に見つつ、95歳でこの世を旅立たれました。

皆様、ご存知の通り、朗らかで前向きな師は、美味しいお酒と新しい電子機器が大好きでした。お稽古の合間に、書や仕事のお話を楽しくしてくださり、もうひとりの父のような存在でした。

まさに師は二刀流の人生を歩まれました。池田市の教育に関わり、教育長や助役（副市長）を務められ、職員の先頭に立って市政に貢献され、多忙を極めながら、書の道を貫かれました。玄遠社の創立にお仲間の先生方と尽力され、社中では、書道講座を開催され、臨書の大切さを説かれました。また、創作への探究心と情熱に溢れ、弟子達は、毎回、触発と感動（〆）させられました。ある時期、大字書の類型化を憂い、甲骨文字に取り組まれ、力強い書線の鍛錬をめざされました。師は、折々の賛否を受け止めながら、現代の大字書・漢字書をさらに追求していかれました。

晩年、ご活躍されてきた書道芸術院展、毎日書道展等、各組織の重鎮になられても、歯に衣を着せぬ姿勢で席におられたとのことです。最晩年、歩行に支えがいる時も、青年のようにご指導され、檄を飛ばされていました。師の厳しくも優しい叱咤激励の言葉も、実は悩んだり迷ったりされていたお背中も、全てが「書」や弟子達への〝師の愛情〟と、側で感じておりました。尊敬と感謝の念でいっぱいです。　合掌。

師を亡くしてしばらく、私は筆が持てない時期がありましたが、今になり、師の偉大さとご指導の深さを痛感し、気の引き締まる思いで筆を持っております。もう一度、私の稚拙な書に、「気合いを入れて書けよ！」と、一喝してほしいです。

このような私が今、書道が続けられますのは、亡き師の志を引き継ごうと、凛としてご指導くださる現在の師・小伏小扇先生のお陰、社中の方々のお陰、そして、書道芸術院、玄遠社の各先生方のお支えのお陰と、感謝しております。ありがとうございます。

最後に、師・小伏竹村先生の言葉のいくつかを記します。

・「臨書をしっかりしたら、自分の字が書けるようになる。」……筆遣いをゆっくり見せてくださいました。

・「切ったら血が出るような生きた線を書かなあかん。漢字もかなも強い線やで。」

・「疲れているんと違うか？　違うことをしてから、また書いたらよい。」

これからも、師の書への探究心と情熱を尊び、教えを大切に書を学び続けていこうと思います。皆様、今後ともご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

（最後になりましたが、師の思い出が多く僭越な文になりましたことをお許しください。）

第77回書道芸術院展「次北固山下（王湾）」　谷田熾箋書

書道芸術院
令和の群像（2025）

第76回毎日書道展　　長島僊雨書

長島僊雨（千葉）

「始まりは」

「日展に入選したから見に来て。」電話の主は高校書道部以来の友人で、その声は弾んでいた。学生を終えると書道とは離れた生活をしていた私は書道会のことは何も知らずに日展会場へと向かった。彼女の作品は詩文書であった。現代詩文書とか漢字仮名交じり書とか聞いたことも見たこともない言葉や作品に出逢った。ただただ感心するばかり、時代は変わっていた。子育ては一段落したが、これといって趣味はない。漠然と何かしたい、何かしなくてはという気持ちはあった。そこへ友達からタイミングよく連絡があって気持ちは一気に昂り、会場を後にする頃には「彼女が日展作家になったのなら私も書道を始めてみよう。」至って不純な動機から書道を始める決断をするのに時間はかからなかった。

さて、やると決めたもののどこへ習いに行けば良いのかさっぱりわからない。近所の子どものお習字教室ぐらいしか知らない。そんな私に彼女は言った。「私の師匠を紹介しようか。」何ともまあ有難い話だが、そう簡単にそれをのむわけにはいかない。何せ彼女に対抗意識を持って始めるのだから。その時に唯一名前を知っていた書家は、隣りの高校で書道を教えていた辻元先生だけであった。運よく彼女の口添えで辻元門下に入ることができた。

中抜け〇十年で筆を持つ。一からの勉強である。月例の課題を書いては提出、上がらない、たまに丸がつく、昇級する、写真が載る、どんどんとモチベーションが上がる、書くことが楽しくて仕方がない。どうやらはまってしまったようだ。そうするうちに姉弟子たちに詩文書を書くことを勧められる。何をどんなふうに書いたらよいのか全くわからない。「何でもいいのよ。」と言われてもその何でもがわからないのだから困ったものである。手本があるものを書くのは何となくそれなりに書けても、言葉からレイアウト、すべて自分で考えなくてはならない創作の世界はむずかしい。試行錯誤の繰り返し。手探りで悩みながらの作品制作。展覧会に出品する、会場に行くが恥ずかしくて自分の作品は見ていられない、そんなことを繰り返すうちに書道を始めてから20数年たってしまった。師匠、先輩、仲間に恵まれ楽しく趣味を続けている。

動機は至って不純であったが、もはやライフワークとなった書道とともに、老後へと向かっている。

新　鋭　礼　讃

漢字部　審査会員候補　　日暮　真梨（千葉県）

所属　白扇書道会
彩白書道会
師名　渡辺柱雲

参加している書展
毎日書道展
白扇展

「杜審言詩」

獨有宦遊人　偏驚物候新

作品自評

『和晋陵陸丞早春遊望』の詩より、その一節を行・草で表現してみました。「独り宦遊の人有り　偏えに驚く物候の新たなるに」。ふるさとを離れて宮づかえの身にある人だけが、あたりの風物のすっかりあらたまったことにふと気づき、心を驚かせるものだの意。子育てをしていて、ふとした時、社会へ目を向けると、なんだか独り取り残されている気分になることが多くなり、気持ちが近く感じられたので、この一節を選びました。

どの作品でも同じなのですが、空海のような力強く、気迫に満ちたものを目指しています。しかし現実は難しくて、単調にならぬよう文字のパズルを意識したものの、1行目の2・3字目、落款の配置をもっと意識せねばと反省しています。

書活動における課題

現在、ふたりの子育てに追われ、書に費やせる時間が取れず、気持ちばかり焦りますが、柱雲先生をはじめ仲間や家族の理解があり、続けてこられました。そのことに感謝しながら自分らしい創作をしていきたいです。

今、伝えたいこと

高校生の時に書道部へ入部したのがきっかけで当時顧問だった柱雲先生に出逢いました。卒業後もこれで辞めてしまうのはもったいないと助言を受け、途中休憩することもありますが、初心を忘れずに自分のペースで取り組み精進して参ります。

前衛書部　審査会員候補　　山口　翠華（千葉県）

所属　洞成社
師名　板垣洞仙

参加している書展
毎日書道展・長野県現代書藝全国展

「唯による」

作品自評

ただ、ひたすらに続けてきた書へ想いを込めました。初めて書く大きさで、展覧会作品の時に用いる大きな筆に比べて、今回は多少小さめの筆のため、躍動感や飛沫を出すのに苦労しました。左右非対象、疎と密のバランス等、頭でイメージしていても、実際に筆を動かすとなると話は別。余白をうまく表現できればと数枚書きましたが、なかなか思うようにいきませんでした。前衛書の面白さは「ままならなさ」にもあると感じています。今この作品を見て、筆の大小や硬い毛、柔らかい毛の筆を今後はもっと使用して勉強しようと思いました。

書活動における課題

現在、月に3回仕事帰りに教室に通っています。普段は毎月の課題や臨書を書くのに精一杯ですが、無理なく楽しんで続けていきたいです。鋭い線質と余白を求めて、日々精進してまいります。

今、伝えたいこと

幼い頃、親に連れられて習い始めた書ですが、気づいたら自分の大切な一部となっています。高校の書道部時代からの恩師、板垣洞仙先生が作る、教室の温かい雰囲気が好きです。様々な世代が集まり、他愛ない会話も挟みながら、それぞれのペースで書きたいものを書く唯一無二の空間です。書は自分にとって、人との縁を繋いでくれるもの。これからも仲間と一緒に、一「書」懸命に頑張ります。

「新鋭礼讃」は不定期の掲載になります。本院・無監査以上の方で掲載を希望する方は、ぜひ院事務所まで連絡してください。

『書道芸術』クロニクル（2）第3号

発行日　昭和33年（1958）2月1日
編集人　中島邑水　発行人　香川京（峰雲）
印刷所　吉田印刷株式会社
総ページ　B5版24ページ　表紙含む
価格　特価100円　送料8円
口絵写真　なし
手本揮毫　長井幸雄・川崎梅村
競書成績　規定部…141名（優級～10級）
　随意部…特選6名・秀作39名
　入選13名
　研究部…4名
競書短評　規定部3名　随意部3名
記事　①第11回書道芸術院展特集
　②この作品をとりあげる
　③書壇は大回転しようとしてる

【解説】（文中敬称略）

この号は、1月8日から開催された第11回書道芸術院展を特集し、8ページ増やしたため、特価となっている。審査員作品が22点、入賞作品が24点、計46点の写真図版が掲載されている。そして、展覧会の初日に審査員10名と特別賞受賞者のうちの1名（恩地春洋）が上野「井筒」に集まり、第11回展をテーマにして語り合っている。ちなみに、当時の部別は、

A第一科（創作）　B第二科（創作）
C第三科（篆刻）　D第四科（臨書）

の4部構成であった。AとBの違いが分かりづらいが、前回展でAは「具象的なもの」、Bは「抽象的なもの」となっているので、それを踏襲したものと思われる。おそらく、伝統にとらわれない革新的な作品がBとなるのだろう。

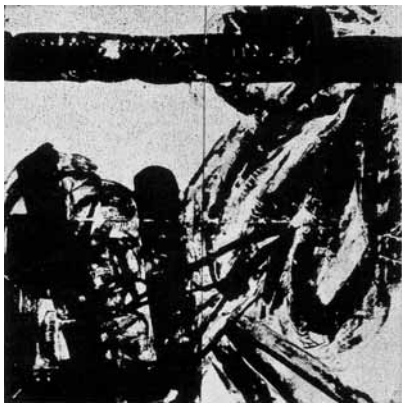
座談会では、今後は二科に重点を置き、より前衛的であるべきという意見に対し、一科と二科が互いに影響しあって共存していくべきという異見が出され、方針の対立が見られた。作品については、類型化の恐れも指摘された。「前衛精神・表現主義」と、「文字性・読めること」とのバランスをどのように取っていくかが課題になっていたように思われる。

記事②では競書・研究科の条幅作品が合評された。明清調の行草3行作に「いらない線を取り除くとさわやかなものが出てくる、表現停止が必要」と助言があった。創刊号で募集された競書は、課題による規定部と自由に書ける随意部、用紙・素材・形式などすべてが自由という研究部の3本立てであった。

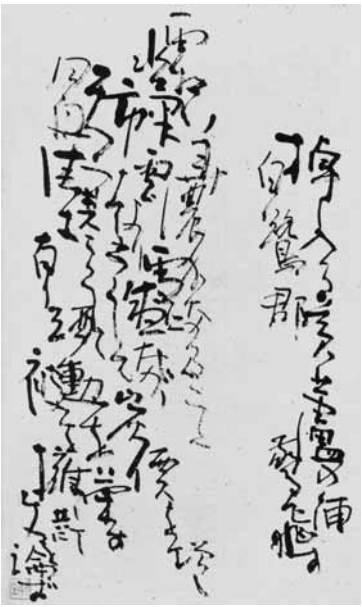
記事③は日本芸術院会員（書道部門）の欠員補充に関する批判。書壇協議会の出した声明書を全文掲載している。

第11回書道芸術院展より　3作

表　立雲



香川　倫子



石田　耕堂

古典鑑賞 487

李嶠詩断簡（伝 嵯峨天皇筆）③

※落款を必ず入れる。署名、もしくは○○臨（押印のみも可）

漢字研究部臨書課題 ＝（半紙普通判・縦使用）左記掲載部分より何文字臨書してもよい。

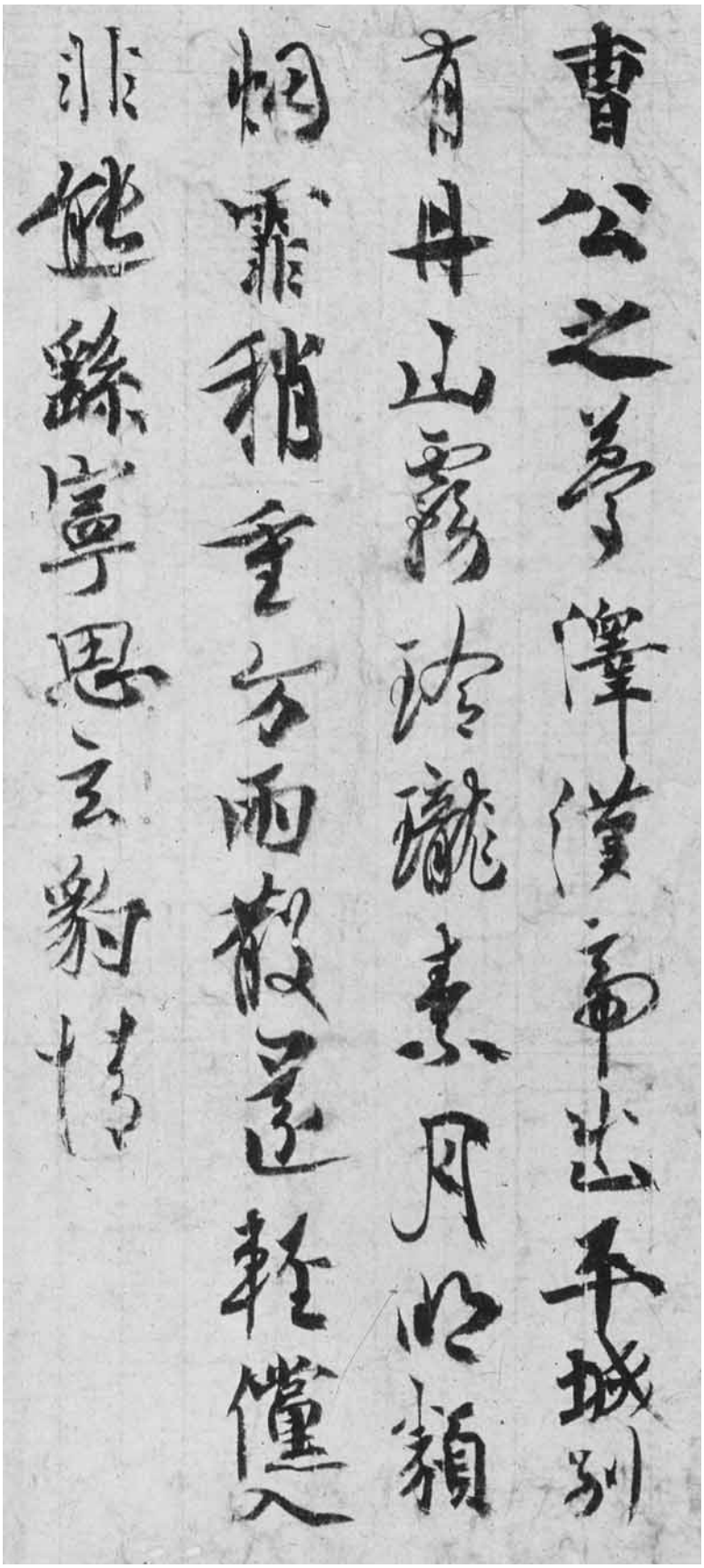
特別研究部臨書課題 ＝（A.大作の部―毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可 B.小品の部―半切1/3以上半切以内・全紙1/3以内も可（A・B縦横自由））当該古典の左記掲載部分以外も可。

〈解説〉「霧」をテーマにした五言律詩が今月の課題である。霧はさまざまなものを隠すが、丹山の霧は月を白く輝かせてくれる。それは煙よりやや重く、雨よりも軽やかに拡散するから、というような詩意である。

この古典の特徴を「シリーズ書の古典29（天来書院）」を参考にしてまとめると、

- 欧陽詢の行書とよく似てはいるが、それよりは線が分厚く骨格もたくましい。
- 空海の書にある「俯仰法」が多用される。
- 側筆で、筆を閉開させて引く横画…2行目「丹」等
- 強く打ち込んだ弾力を残した転折…2行目「月」等

筆順の資料は47ページに掲載しました。（編集部）



曹公之夢澤 帝出平城別
有丹山霧 玲瓏素月明
烟霏稍重 方雨散還輕
儻入 非熊繇 寧思玄豹情

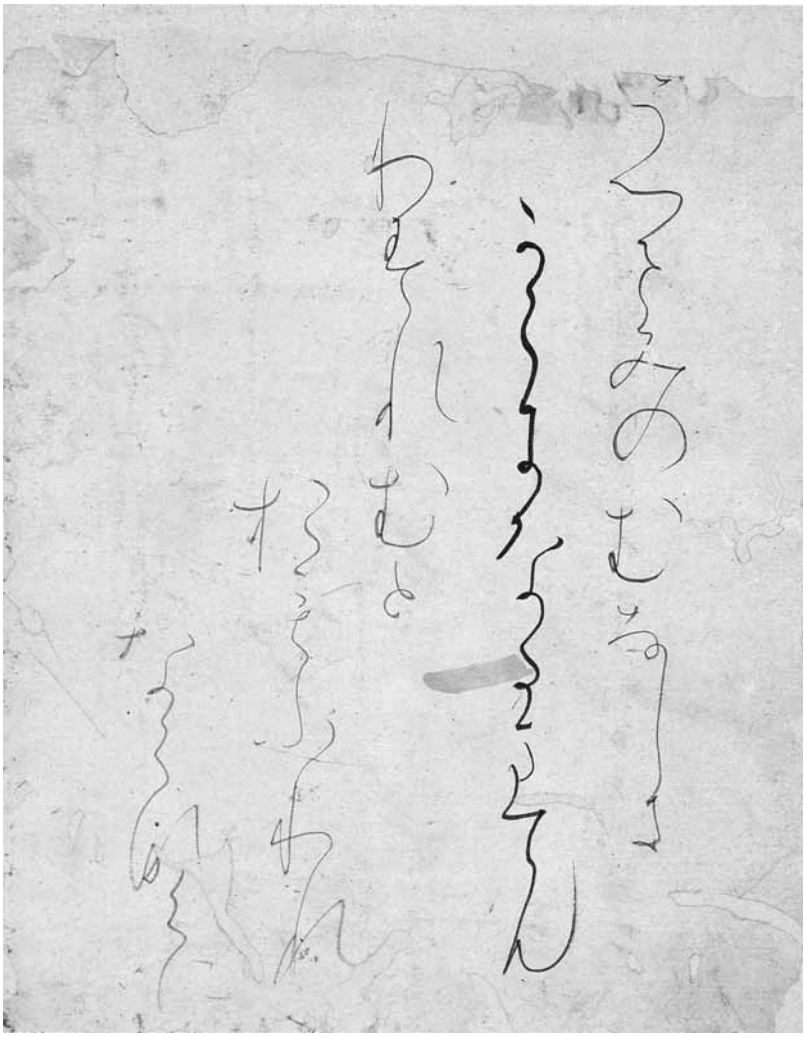
曹公之夢沢、漢帝出平城。別／有丹山霧、玲瓏素月明。類／烟霏稍重、方雨散還軽。儻入／非熊繇、寧思玄豹情。

※掲載図版95%縮小
（原寸にするには105%拡大して下さい）

古筆鑑賞

㉖1

升色紙（伝 藤原行成筆）③



※古筆は原寸（以上も可）で臨書しましょう。

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨（押印のみも可）

白鶴美術館蔵　　※掲載図版原寸

〈よみ〉

うつせみのむなしき
からになるまでも
わすれむと
おもふわれ
ならなくに

〈解説〉「日本名筆選16（二玄社）」によれば、『升色紙』の特色は、

・面相筆の鋭利な穂先を使いこなす
・暢達した線条、リズミカルな連綿
・墨継ぎを強調することによる間の美しさ

などであり、その根本には洗練された高貴な美への憧れがあるという。

さて、今月の課題は、和歌本文を5行に散らし書きした部分である。紙面の真ん中の高さに大きめの字が並んでいるが、真横一直線には揃っていないことを観察したい。位置をずらすことで余白が落ち着いてくる。また、2行目の墨量によりほどよい緊張と遠近感が生まれている。

2行目「ら」が「こ」に、「る」が「多」に見えないように留意したい。「うつせみ」の「世」の筆路は字書で確認してから臨書していただきたい。（編集部）

かな研究部臨書課題	（半紙普通判（**料紙可**）・**縦長**に使用）別紙を裁断して貼付も可。半懐紙は半紙サイズに切って使用のこと。上記の古筆の掲載部分より**歌一首以上を書く。（全臨も可）**
特別研究部臨書課題	A．大作の部＝毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可 B．小品の部＝半切⅓以上、半切以内（縦横自由）、全紙½以内も可 ＜いずれも上記の掲載以外も可。＞

漢字規定　初段以上【1月15日締めきり】用紙　半紙普通判

後藤大峰選書

山空松子落　よみ（山空しく松子落つ）

書体＝自由

習い方解説 (3)

後藤大峰

山空松子落　（韋応物）

（山空しく松子落つ）

山々の木は葉が落ちて閑散となり、そこに、松の実が落ちている。やがて降ってくる雪が、それを覆い尽くしてしまうに違いない。

明末清初の書家、「王鐸」を基調に書き上げました。独特の連綿草等、動きのある太細のしっかりとした書は実に魅力があり筆者も大変、好んで臨書し、作品にも取り入れました。

特に線の太細、強弱などを組み合わせた書風には彼、独特の雰囲気があり、それを参考としました。

筆は兼毫筆、リズムに乗って一気に書作しました。

漢字規定 秀級以下【1月15日締めきり】用紙 半紙普通判

大平邑峰選書

電光石火 よみ（電光石火）

書体＝楷書

習い方解説 (3)

大平邑峰

電光石火（五灯会元）
（電光石火）

動きが非常に素早いこと、非常に短い時間のたとえ。

「電光」は稲妻の光、「石火」は火打石が出す火のこと。

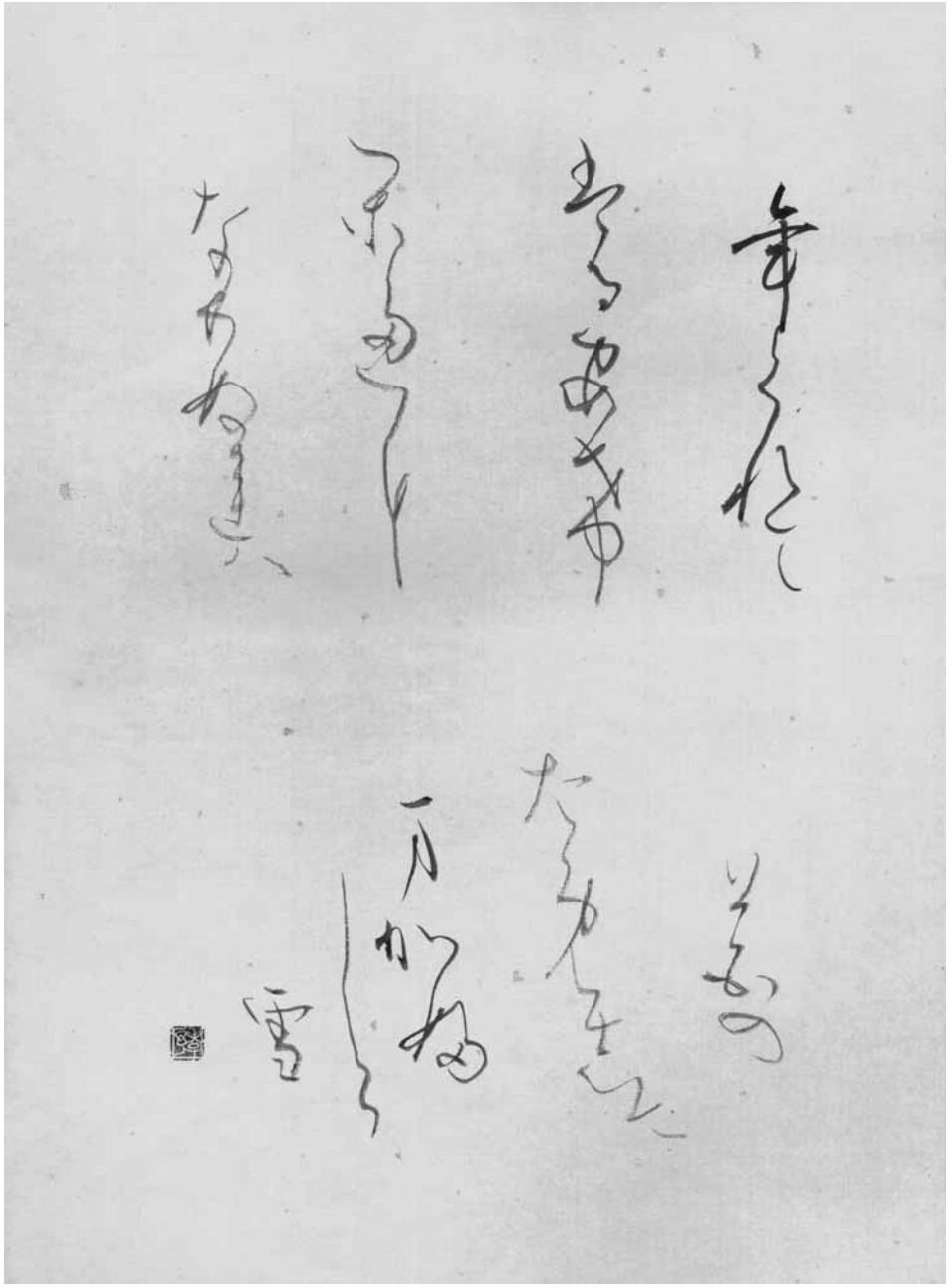
課題の言葉のような非常に素早い動きではないが、ここ2ヶ月のかしこまった調子ではなく、力強くて剛毅な書を目指してみました。中国北魏の造像記を見ていると「このような思いでこの仏様を刻しました。」という書者の思いが心に迫ってきます。強い信仰心と力強い書きぶりが相乗効果となって見る人の心に伝わってくるのです。

起筆や転折で力をためて一気に押し出す。紙に対しての抵抗感を確認しながら横画も縦画も筆の鋒を押していく線の引き方を繰り返しました。自身の強い意志を乗せていくような呼吸で、気が緩むことがないよう筆を運びました。

筆は鼬毛の中鋒、半紙は厚手の手漉紙を使用しました。

かな規定　初段以上【1月15日締めきり】用紙　半紙普通判（料紙可）

小島孝予選書



よみ方　年暮(久)れて春(盤る)明(安)け(希)方(閑多)に(耳)なり(利)ぬれ(連)ば(八)
花のため(免)し(志)に(二)ま(万)が(加)ふ(婦)白(しら)雪

創作

＊料紙は半紙版(33.0×24.5㎝)を使用しましょう。半懐紙は上記のサイズに切って下さい。

習い方解説 (3)

小島孝予

年暮れて春明け方になりぬれば
花のためしにまがふ白雪

（読人しらず「後撰集」）

年が暮れて春が明けて来る時期になったので、咲き初めの花かと見まちがえた白雪です。

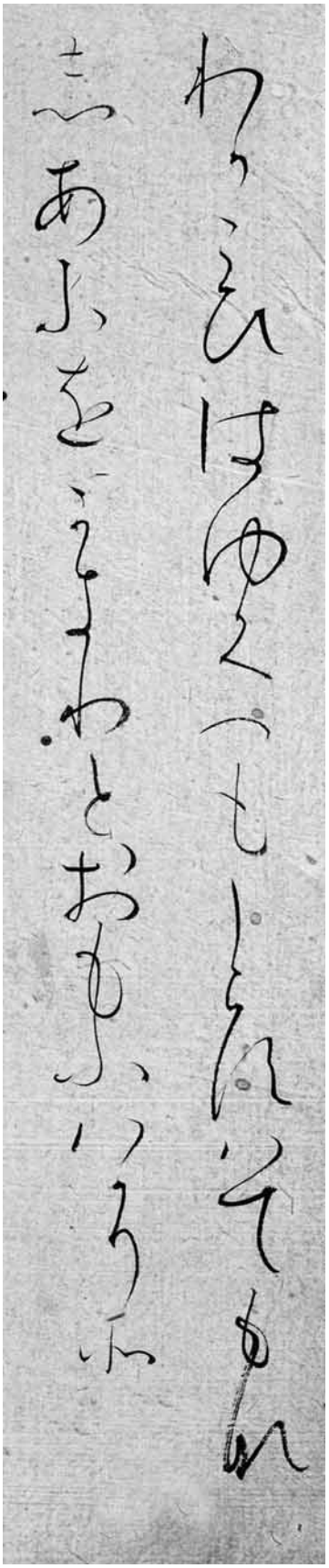
「後撰和歌集」は日本の勅撰和歌集の一つで、951年頃に成立した。古今和歌集の後に編纂されたことから「後撰」と名付けられた。古今集とは異なる視点から、当時の歌社会の様子がうかがえる歌集である。

和歌を上部と下部の散らし書きで表現しました。上部の4行は行頭尾をほぼ揃えた形にしました。それに対して下部は5行とし、行頭を「山なり」にすることで変化をつけました。また、下部の行頭は、上部の行頭の中心と重ならないようにすることが大切です。

墨継ぎは「万」です。

かな規定　秀級以下【1月15日締めきり】用紙　半紙タテ$\frac{1}{2}$（料紙可）（たて32センチ・よこ12センチ）

掲載写真の和歌を臨書する。部分臨書も可。〈注〉署名は「〇〇臨」。　粘葉本和漢朗詠集（掲載写真拡大120％）

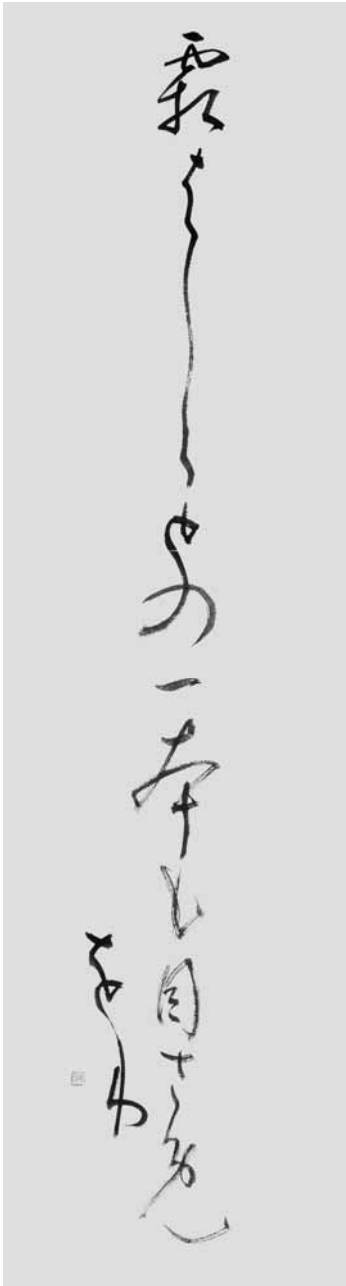


よみ方　わがこひはゆくへもしらず（須八）はてもな（那）しあふをかぎりとおもふばかりぞ（志）

歌意　私の恋はどんな方向に行くか、また果てがあるのかもわかりません。ただ、今は、あの人と逢うことができさえすれば、それが恋の到達点なのだと思って、耐え忍ぶばかりなのですよ。

かな条幅規定【1月15日締めきり】用紙　小画仙紙半切（料紙可）

佐藤希雲選書



よみ方　霜柱（者しら）どの一本も目ざめ（免）をり（利）

創作

※タテ形式に限る

習い方解説 (3)

佐藤希雲

霜柱（しもばしら）どの一本（いっぽん）も目（め）ざめをり

（加藤楸邨）

寒さの厳しい早朝、たくさんの霜柱が朝日に輝く光景が目に浮かぶ句です。

紙面の中心より心持ち右から書き始め、タテへの流れを意識しながら墨量にも配慮し、下部の「を」の墨継ぎを効果的にします。

気分よく書ければ成功でしょう。

漢字条幅規定　初段以上【1月15日締めきり】用紙　小画仙紙半切

名越蒼竹選書

溪上遥聞精舍鐘　泊舟微徑度深松
（溪上遥かに聞く精舎の鐘　舟を泊めて微径深松を度る）
（郎士元）

書体＝自由

漢字条幅規定　秀級以下【1月15日締めきり】用紙　小画仙紙半切

種谷萬城選書

停車坐愛楓林晩　霜葉紅於二月花
（車を停めて坐に愛す楓林の晩　霜葉は二月の花より紅なり）
（杜牧）

書体＝自由

習い方解説 (6)

名越蒼竹

今月は隷書体での作品構成の基本について考えます。隷書作品は縦長形式でも横広形式でも、字間を広げ行間を狭くするのが一般的です。隷書体には「古隷・八分・木簡」といった書風差がありますが、筆者は波磔に特徴がある八分体に近い書風で書きました。ただ後漢の八分体ほど強調していないため、文字重心は左寄りです。

※タテ形式に限る

習い方解説 (6)

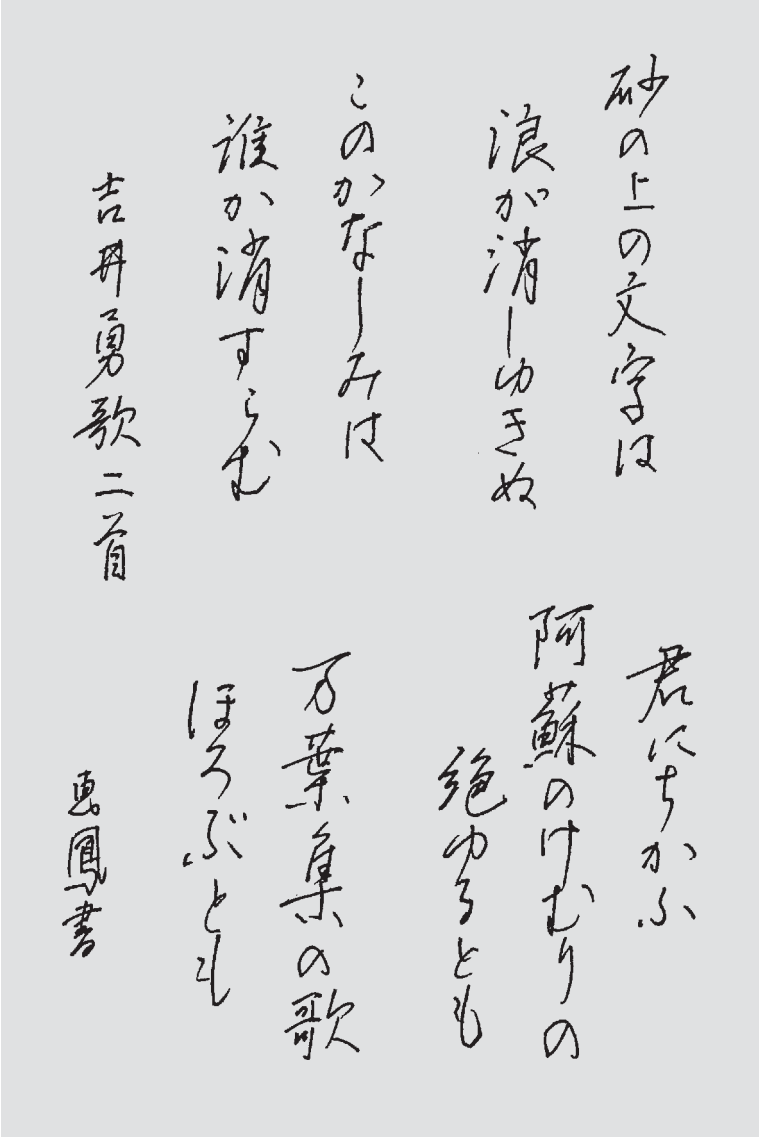
種谷萬城

今月は、杜牧の詩「山行」の転・結句で、漢簡に倣いました。20世紀初頭より、中国各地から肉筆文書である木竹簡が大量に出土しました。漢簡には、筆の穂先の開閉を自在に用いた躍動的な線が見られます。特に装飾的な波磔の多彩な表情は生命力に溢れ魅力的です。なお、「花」字は篆隷では「華」を用います。

本誌に連載中の『漢字書基礎基本講座⑳』と関連動画を参考にして下さい。

ペン字規定【1月15日締めきり】

飯沼恵鳳選書



書体＝自由

◇用紙　ハガキ大（14.8×10㎝）の白紙を使用
◇黒インクのペンを使用（ボールペン・フェルトペン可）

ご注意!!
用紙の大きさにばらつきが見られます。
用紙サイズ（ハガキ大14.8×10㎝）を守って下さい。

習い方解説 (3)

飯沼恵鳳

今月は、吉井勇の「歌集」より2首を選定しました。

吉井勇は、歌人・劇作家・小説家です。苦境の中、失意のうちに歌行脚を重ね、人間修行の日々から再起、耽美頽同の世界から円熟した枯淡の境地へと展開していきました。

今回は、吉井勇の境遇を表している人間悲哀を見つめた2首を上下二段に分けて、散らし書き風にして書いてみました。

漢字は主に行書体で、ひらがなは連綿も加え、全体に流麗さを醸し出すように、と。そしてまた、内なる懐を込めて、芯を失うことのないように、リズムを加えて書いてみました。

構成は変えてみてもかまいません。

砂の上の文字は浪が消しゆきぬ
このかなしみは誰か消すらむ
君にちかふ阿蘇のけむりの絶ゆる
とも万葉集の歌ほろぶとも
吉井勇歌　二首　〇〇書

実用書【1月15日締めきり】

謹賀新年

昨年は大変お世話になりました

本年もよろしくお願い申し上げます

令和八年元旦

長島僊雨

長島僊雨書

謹賀新年／昨年は大変お世話になりました
本年もよろしくお願い申し上げます／令和八年元旦／氏名

書体＝自由

（掲載手本85％に縮小）

◇小筆・筆ペン・サインペンなどを使用　署名は各自の氏名（号）を
◇用紙は普通版半紙横½（24.5×16.5㎝）　B５版コピー用紙（26.0×18.1㎝）も可
◇所定の出品券を作品の右下に貼る

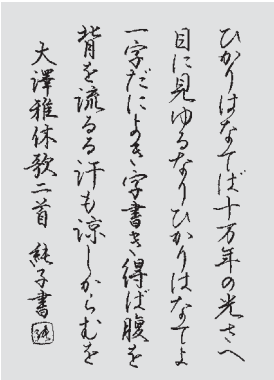
今月のホープ作品・各部総評　NO.774

漢字部　師範　髙木　蒼信
漢簡書法に習熟した作。波磔の筆法に変化を加え、表情豊か。温雅な風趣にまとめ、品性が高い。
◎漢字部総評　上級は隷書作品が多く見られたが、隷書書法に巧拙が見られた。「燈」字は篆隷で「鐙」に作るも可。（萬城評）

漢字条幅部　師範　藤井　龍仙
群を抜く手腕。力むことのない流れから生まれた筆線の妙味と多彩な造形美が一体となった作。
◎漢字条幅部総評　参考手本の影響か楷書作品が多かった。改めて楷書での制作は至難。字形、気脈の貫通の一体化を大切に。（石雲評）

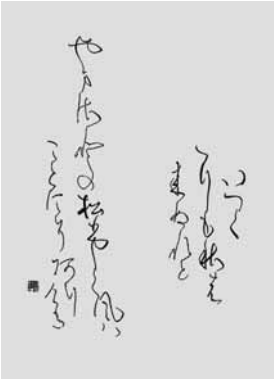
かな条幅部　師範　星野　正子
やや濃墨で自在のリズム感と鋭い線質で、最後まで緊張感あふれる見事な作品です。
◎かな条幅部総評　行頭の「し」が太く重い作品が多かった。行頭であっても含墨量をやや控え、リズムで書き出しましょう。（孝子評）

ペン字部　師範　中原　純子
太細、遅速の変化、曲直の妙により、張りのある線が生まれている。とても読み易い作品である。
◎ペン字部総評　行間の余白や字配りのきれいな作品が多かった。ペンと紙の相性を一考。手本は参考で。（癸軒評）



前衛書部　特選　浅野　彩紅
上部の造形と右下に流れる筆さばきのよい飛沫線が宿墨の滲みとあいまって構成力抜群の力作です。
◎前衛書部総評　想いの深みを訴求した作品が多く感動しました。（慧香評）

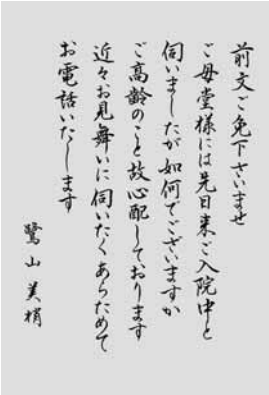
かな部　師範　島　悦子
墨量の使い方が目を引き、作品のメリ張りが鮮やかで散らしが映えた。4行目の渇筆も穂先が利く。
◎かな部総評　参考手本に則った作が多く比較的よくできていた。いつものごとく小さい・細い等は適当でないので要注意！（洋子評）



現代詩文書部　特選　澤　喜代美
気宇雄大、大胆さと繊細さが織り成す多彩な線質は温雅で叙情的。墨色の滲み美しく品位が高い。
◎現代詩文書部総評　筆の穂先が立つ勁い線は、余白に響き美の世界を育む。（恵鳳評）

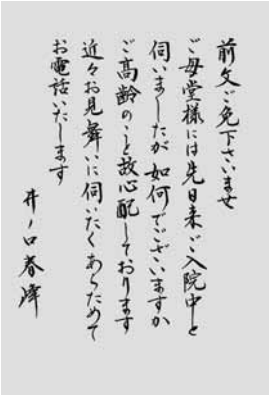
実用書優秀作品

選評　佐藤莱扇


前文ご免下さいませ
ご母堂様には先日来ご入院中と
伺いましたが如何でございますか
ご高齢のこと故心配しております
近々お見舞いに伺いたくあらためて
お電話いたします
鷺山美梢

特選　鷺山美梢

線質伸びやかで余白美しく品格のある作。落款まで見事。

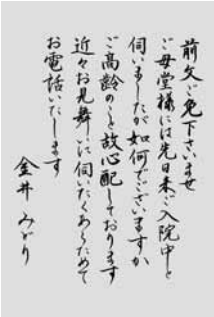

前文ご免下さいませ
ご母堂様には先日来ご入院中と
伺いましたが如何でございますか
ご高齢のこと故心配しております
近々お見舞いに伺いたくあらためて
お電話いたします
井ノ口春峰

特選　井ノ口春峰

落ち着いた書きぶりで、ゆったり伸びやかな筆遣いの作。

今月の注目作

金井みどり


前文ご免下さいませ
ご母堂様には先日来ご入院中と
伺いましたが如何でございますか
ご高齢のこと故心配しております
近々お見舞いに伺いたくあらためて
お電話いたします
金井みどり

◎実用書部総評

用紙・用具の工夫が見られた。自分の字が美しく見える大きさ、行間、余白についてもう一度考えてみて下さい。齢の誤字散見。

（莱扇評）

特選

大雲　鷺山美梢
八街　井ノ口春峰
宗苑　茂木絢水
誠和　石崎甘雨
こだ　北爪鼓祥

秀作（50音順）

春汀　上利啓子
澄春　加瀬夏峰
紅瑤　金井みどり
書游　佐藤華園
梓江　佐藤祥扇
千葉　竹浪叙舟
深大　多胡三千代
佑朋　中原純子
もく　本郷谷恵
八街　村上佳月

佳作（50音順）

紅瑤　相澤敦子
竹美　秋　龍華
幸扇　井上洋硯
中川　大島竹鳳
多賀　齋藤松苑
青蓮　佐々木藍水
水茎　深大清水蘭舟
澄春　清水良子
大雲　吉岡土井孝子
玉州　橋浦紫江
たか　浜野永篁
八街　三浦小樹
福島　中里天璋
梓江　吉松幸子

入選（50音順）

もく　青木藤蓮
千葉　安藤叙孝
氷壑　伊澤香雨
耕雲　伊藤和子
田無　稲村智恵
たか　浮須康彰
生大　太田良子
芳石　鹿野秀芳
澄春　菊地江月
蒼陽　熊井宏子
千葉　酒井城園
素朴　坂本素朴
祥華　佐藤トモ子
秀畝　陳野原千鶴子
常盤　水津恵風
やま　田玉哲子
江龍　田中二三代
立精　千田白香
福山　徳永裕子
堺　利守由佳理
遊雲　土居京仙
玄象　堂園慶子
天璋　中里星子
書泉　永井伯泉
柳賢　二上香柳
紅月　林田幹子
瑛韻　林美奈子
澄春　深澤佳月
硯水　福澤由紀子
洞書　福田桃子
粋仙　藤井龍仙
五月　藤川千春
八街　松山峰生
春汀　宮野真満津枝
椿翠　安嶋眞砂子
華仙　柳瀬瑛華
〃　山口雪翠
竹美　横山蘭舟
大雲　渡辺妙華

（選外342名氏名略）

現代詩文書部（特選）

選評　飯沼恵鳳

景燁　疎密緩急の変化で躍動的
藤漣　骨力の線勁く引き締まる
千恵子　穂先を突き刺す直線見事
美梢　温雅で叙情的、格調高い作
珠鈴　引き締まった勁い線抜群
叙舟　用筆の技術力が高度な作
京仙　哀愁秘めた繊細さが光る
淑子　懐ろ広く長鋒の線冴え渡る
哲子　3行目筆の動きで線見事
四峰　構成書き方リズム面白い
洋硯　純心素朴で温かみが充満
真理　運腕大きく躍動している
眞華　気宇雄大2行目流れ抜群
雅邦　後半だけでも充分な傑作
彩紅　書き手の思いが愛おしい
山房　郷愁を誘う味わい深さ
素朴　作品創りを心得ている
美悠　重厚で温雅な線質躍動
青仙　自然で穏和、味わい深い
草鈴　マグマのような情熱作

前衛書部（特選）

選評　三森慧香

山房　構図が生む情感鋭く迫る
菜圓　曲線の操作で集合力創出
友香里　細線で情趣と冴えを醸す
桃翠　造形と空間の対比が絶妙
春汀　獲物を追う圧倒的な迫力
紅華　手練れた感じで複雑の美
遼平　圧巻で迫る場面善か悪か
加代子　見え隠れのロマンに驚く
光燁　表情豊かな渇筆線が舞う
千芳子　洒脱の世界の風景に誘う

今月の

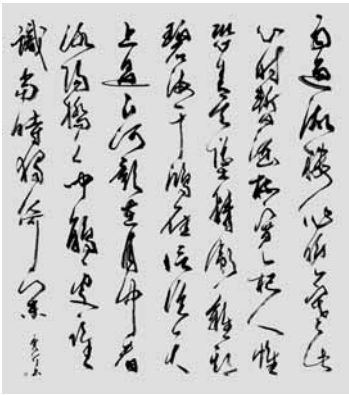
特別研究部優秀作品（特選）

選評　小竹石雲　千葉蒼玄　小島孝予　三浦鄭街

小品の部

漢字（水茎）

高岡秀汀「感事」



高岡秀汀書

59×53㎝

◆多字数の詩を7行、行草で表現。字粒を小さめにして行間を明るくし、無理のない自然な運筆で好感の持てる作。残念な点は雅印が小さ過ぎたか。（鄭街評）

かな（宗苑）

茂木絢水「ふるゆきの」

茂木絢水書

135×35㎝

◆墨色よく濃淡遅速による、流麗で豊かな流れが半切に広がった。絶妙な余白が作品全体をより立体的に感じさせ、見事な作品に仕上がった。（孝予評）

現代詩文書（白扇）

天野白扇「まちあかねの詩」

天野白扇書

140×35㎝

◆余白と流れから生まれる抒情性に魅了された。羊毛長鋒の筆捌きの習熟度が高く、筆触に筆者の思いが投影された個性豊かな作品に仕上がった。（石雲評）

前衛書（秀水）

坂井初江「燠」

坂井初江書

135×35㎝

◆渇筆の線が美しく舞う。3部の形が呼応し連なっていくが、さらなる落ち着きある線が加われば作品に深みが増すだろう。（蒼玄評）

〈小品の部〉

創作の部（42点）
漢字―6点
かな―4点
現代―23点
篆刻―1点
前衛―8点
臨書の部（45点）
漢字―42点
かな―3点

総出品点数 87点

〈特選候補者〉

（創作の部）
「漢字」大雲森地　桂鶴
「現代詩」もく植松　四枝塚田　梅田紅雨　青木藤漣
蒼風笹木蒼風　月華相馬朱郷　炎佳伊藤紫炎
「前衛」青蓮佐々木藍水
「篆刻」蒼原庄司　櫻空
（臨書の部）
「漢字」紅瑤笨原島　睦月春汀　雅芳加藤　華祥大雲宮原香扇　洞書安藤楊風　八八街街三浦英樹　菁湖北嶋菁湖　八八街街三十楽翔天樹　相浦小桂香　三佐藤桂恵　八千葉土屋仙
「かな」澄春竹美八木橋紀舟

大作の部

前衛書（蒼原）
佐藤奎山
「秋風」

佐藤奎山書

180×60㎝

◆宿墨のような独特の滲みが作品に深みを与え、筆ではなく紙を刷毛のように使い立体感を生み出し表情を豊かにしている。（蒼玄評）

漢字（大雲）
柿沼彩香
「五言二句」

柿沼彩香書

174×54㎝

◆2×6尺の紙に五言二句を木簡風に表現。気宇壮大な気持ち良い作品である。大胆な筆致だが、細部の丁寧さが良いと思う。（鄭街評）

臨書（もく）
本郷谷恵
「李嶠詩断簡」

本郷谷恵臨

167×47㎝

◆潤渇疎密を意識した強い筆致の作品。一字の中に線の抑揚を上手に表現し、作者の力量を十分に感じさせる作品である。（鄭街評）

現代詩文書（宗苑）
臼井真理
「種田山頭火の句」

臼井真理書

71×136㎝

◆覇気ある横への動きに活力を感じる。字間をつめての縦画の凝縮感が潤渇の変化と相俟ってより一層作品に深味を与えている。（石雲評）

〈大作の部〉

創作の部（32点）
漢字―4点
かな―2点
現代―8点
前衛―18点
臨書の部（10点）
漢字―10点
かな―0点

総出品点数 42点

〈特選候補者〉

（創作の部）
「漢字」
大拙 畠中 成山
「かな」
游水 荒川 空華
「現代詩」
翠柳 加藤 紫翠
四枝 伊藤 四夏
四枝 奥川 麗流
「前衛」
一弦 道塚 紫音
紅瑤 川田 弘子
玉州 遠藤 和香
蓮紅 本田 美雪
杏苑 松永 杏苑
紅瑤 廣田 紫
光風 千葉 光泉
月華 佐藤 光峯
容洲 阿部 邑里
（臨書の部）
「漢字」
紅瑤 相澤 敦子
玄象 鉏 匡子
千葉 竹浪 叙舟
若葉 工藤 山房

漢字研究部
（李嶠詩断簡）

選評　稲垣小燕

今月のホープ作品

小泉　潤

漢字研究部　特選　小泉　潤

自在な運筆から生まれる豊かな線質によって空間を美しく捉え堂々とした風格のある作となっています。原帖を見て書くだけではなく、感じとって臨書するという姿勢が伝わってきます。さらなる錬磨を期待いたします。

◎漢字研究部総評

李嶠詩の特徴は起筆鋭く、字形は全体的に縦長、線の太細が際立っているというように見て理解することができます。出品作には特徴をよく捉えた素晴らしい作が多数見受けられ嬉しく楽しんで拝見いたしました。が、反面誤字も散見され残念に思います。臨書の基本の第一は、原本をよく観察して丁寧に忠実に書くことです。古典と真摯に向きあって深く捉えて学書する姿勢を身につけていかれることを切望します。

萩雨　雅邦　梨秀　佐子　美どり　香燁　美梢　雅泉　淑子　睦月　寛子　桃翠　英子　玉泉　朱星　杏邑　藤風　滋　碧環　洋子　珠鈴　八重子　琴

かな研究部
（升色紙）

選評　福田令子

今月のホープ作品

林　美奈子

かな研究部　特選　林　美奈子

升色紙の穏やかで優美な雰囲気が、自然な流れの中で表現できている秀作。また、墨量の変化や、線の太細も良く特徴を捉えていて、見事な臨書作です。

◎かな研究部総評

1行目の詞書の墨量が多く、やゝ強すぎる作品が見られた。墨の濃淡・文字の大小の調和を大切に、伸びやかで、流麗な升色紙を表現してほしい。

淳子　玉さゆり枝

和美　裕代子

菁朗　和湖子

寿美子　百合子　清泉

かな研究部成績表

特選

◎林美奈子　上泉瑞龍　上瑤風　紅風月　紅上泉　清月雲　藍　大和平　高井辺　渡上泉

秀作（60音順）

飯島トミ子　石香　礒祐二　清英子　井和子　榎淳子　井大谷　粕和子　上貝田　関田　上畑　石内　岩佳　荻篁　新良　田瑞　行耶　中郁　上子　村順　田麻　井美　岡子　新恵　菊子　片恵　地水　山恵　江風　崎子　書淳　松ゆり　書玉　泉枝　高青　泉木　紅七　瑞五　風三　崎木　原和　澤美　船裕　美代　早子　部子　津朗　北崎　野湖　境野　田子　畑美　高和　百子　木合　上清　井泉　美奈　百子　清子　菊月　華仙　大雲　清月　白琉　八街　た阪　大か　澄春　玉松　春真　高る

佳作（60音順）

こだ　瑛韻　椿翠　高崎　清月　玉川　書泉　蓮紅　上泉　もく　常盤　祥紫　高真　長月　椿翠　一弦　〃　〃　〃　上泉　〃　〃　清月　紅瑤　須山　高れい　滝澤　竹恒　中村ゲ　長沼え　萩原　長沼美　佐子　洋子　伯子　恒子　尋子　香子　舟子　陽子　佐藤　大拙　瑛韻　玉川　蕨崎　高田　奥崎　高田　上泉　叶野　小林　木村　小村　酒井　坂本　佐藤　佐由　坂本　里美　知美　溪子　姫子　幸代　洋子　加納　順子　仙台　熱海　桃翠

入選（60音順）

佑華　正祥　楓会　もく　紅瑤　芳蘭　昌苑　竹美　蓮汀　竹彩　あた　湖美　青街　八湖　楓会　高真　華崎　高仙　墨縁　青か　桜湖　書草　麗澤　福山　高真　四枝　華仙　高真　高真　前橋　麗澤　書泉　常盤　秀畝　た歌　書游　富貴　春汀　伊呂　蒼原　梓江　大阪　高真　大地　森阪　書游　瑛韻　土気　澄春　一閃　わか　一心

部　悦子　浅井　青木　藍澤　渡邊　吉野　横田　遊山　本佐　本吉　本柳　宮内　三浦　松坂　松尾　前美　藤川　林田　浜野　西岡　苗代　永井　富田　徳永　鶴淵　丹澤　竹井　武谷　関千　関恵　須マ　藤萩　鈴木　椎津　猿名　渡　佐藤　佐々木　佐々木　齋藤　齋田　権代　小林　木春　河合　片桐　鍛治　小野　小寺　臼井　岩瀬　伊与　伊藤　石森　博子　心江　和蓮　藤洲　白珠　信溪　翠綾　蘭舟　紅雅　明香　小梨　小帆　樹　小津　希　琰江　祐仙　洋子　永篁　遠香　佳恵　伯瑶　裕翠　亜希　美枝　香美　一ッ　一江　恵風　光ッ　篁右　華園　浩子　木千　芳子　淳子　杏子　舞夢　雪華　萩江　美雨　和琳　紀貴　敬代　桃代　翠蓮　綾乃　祥園　玉泉　幸子　子

選外

花祥　映紅　春汀　水茎　翠吟　八街　蒼風　春汀　光彩　竹美　聖堂　大雲　素朴　遊山　華心　蒼祥　華陽　こ葉　青だ　菁湖　〃　菁湖　土気　竹島　華祥　樹原　旭葛　森老　青蓮　森地　梅漢　生桃　玉大　川　〃　椿翠　玉川　た呂　澄春　わか　千葉　八街　青湖　あか　森地　青湖　土気　洞書　もく

鈴木　杉田　菅野　下田　清加　佐水　佐藤　笹木　佐木　櫻蒼　櫻和　佐間　鷲龍　坂貞　紺舟　小野　小坂　小泉　熊久井　桐木　北爪　北嶋　菊池　川崎　川崎　川帆　川乃　河上　金子　加藤　加瀬　小野　小高　小澤　大西　太田　大谷　島藤　遠横　上手　梅津　植佳　印東　猪又　井口　井上　石井　石径　池田　池治　五十　安茉　新井　楊風　藤雪

睦心　祥風　映紅　代子　蘭舟　千秋　美風　蒼子　和龍　美貞　洋舟　美梢　遊朴　素山　紺子　坂素　遊子　宏潤　井子　久美　桐木　北喜　川梨　川央　川奈　一佳　川人　か星　お扇　川岡　正雨　正恵　紅扇　紅雅　昌蓮　雪子　良美　一子　大美　太田　大谷　島子　上真　梅津　植佳　猪又　井口　井上　石井　石径　池田　池治　五十　安茉　新井　楊風　藤雪

選外　竹原　恵京　声香　こだ　無門　竹紫　菁湖　華仙　中祥　華習　石張　幕祥　祥紫　粋仙　も玉く　川　〃　澄春　華祥　長月　菁湖　初香　〃　みや　青蓮　光昭　一心　姫路　もく　誉田　〃　天璋　文月　仲川　中江　中ミ　戸よ　居京　部仙　子風　春汀　堺　利守　渡由　守佳　たか　樋泉　辻　千田　田村　玉沢　田中　田喜　田幸　田枝　多哲　田子　采音　武田　宗ノ　世口　墨すみ　瀧子　白香　白恵　千石　千葉　千阪　や　菁湖　墨縁　世珠　白径　玉川　竜泉　華　高橋　高原　高貞　高子　昭華　関木　根美　瀬尾　華子　玉京　竹扇

135名氏名略　渡邊美　渡邊信　米倉　山根　山中　山田　矢野　柳瀬　三澤　三美　松丸　松島　船井　藤　福田　福富　深堀　深澤　樋口　原澤　林田　濱嶋　根本　沼田　丹羽　錦織あ　西久　永川　中福　中野　中里　中惠　仲里　中ミ　戸江　戸居　渡部　利子　利守　佳由　樋泉　辻　千田　田村　玉沢　田中　田喜　田幸　田枝　多哲　田子　采音　武田　宗ノ　瀧子　高橋　高原　高貞　高子　昭華　根美　関木　代子　京子　美信　美筍　聲香　美禎　清玉　京風　美琇　蒼華　智舟　愛子　翠石　悦舟　龍子　恵子　椿彩　清洗　佳月　玉葉　典子　直樹　雅幸　奎心　範夫　さ子　美子　藤翔　亮子　惠美　野子　里子　星子　信夫　川子　江子　よ子　京仙　部風　紀子　佳理　佳皇　洋子　白香　恵石　千子　幸枝　美哲　中玉　田口　村すみ　沢梨　田秀　田貞　田子　中雅　玉昭　喜華　原子　原貞　原子　高子　高子　高

審査会員の部　結果発表（出品数 漢字30点・かな11点）

選評　種谷萬城・下谷洋子

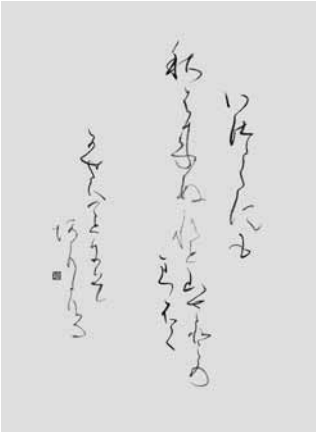
〈次点・50音順〉

東平　絹子

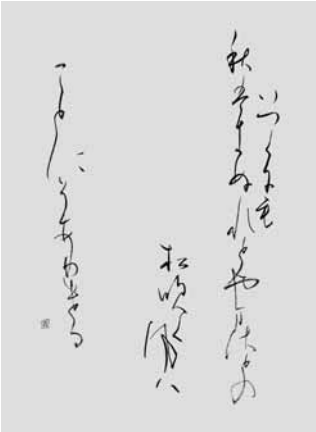
大内　熒軒

西川　藤象

竹浪　叙舟



茂木　絢水



佐藤　一義

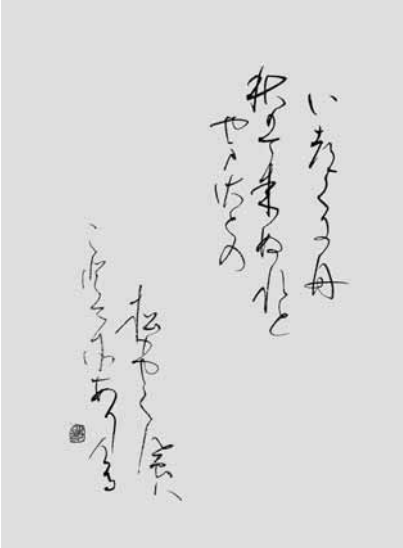
漢字秀逸作

臼井真理

熱達した技法が窺える。蔵鋒が生む線は重厚で充実し、潤渇の変化も巧妙。作品に向う書家の気迫が見る者を圧倒する。日頃の修錬が生む魅力的な作。

（萬城評）

かな秀逸作



齋藤杏邑

前半はリズムが少々硬いが、後半の動きは渇筆も含めて筆先を細やかに運び美しい。潤筆は、筆の当たりが強く出るので強弱の扱いにひと工夫要する。

（洋子評）

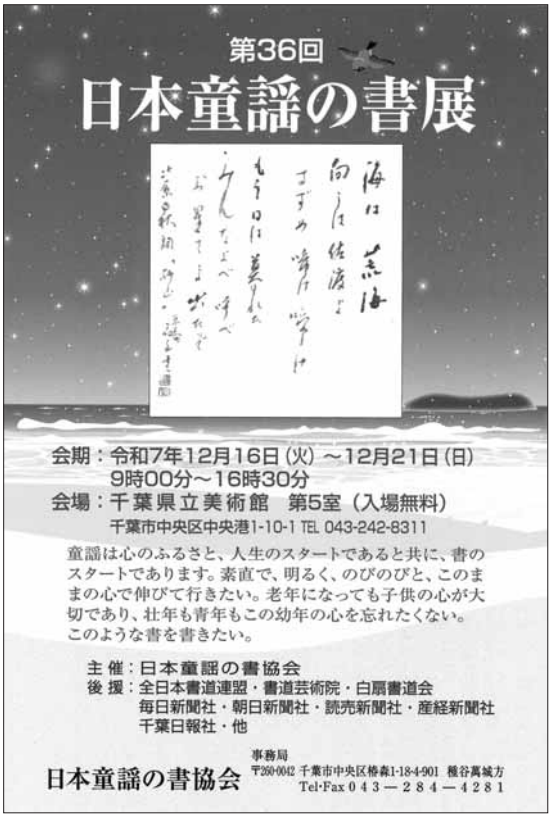
第74回 和光展

●会期　令和８年１月10日㈯
～12日㈪・㈷
10：00～17：00
（最終日16：00まで）

●会場　コスメイト行橋
〒824－0005
福岡県行橋市中央１丁目９－３
TEL 0930－25－2300

●主催　和光塾　（塾長）高田幽玄

●後援　行橋市教育委員会・苅田町教育委員会・みやこ町教育委員会・行橋市文化協会・（公財）行橋市文化振興公社・毎日新聞社・西日本新聞社・（公財）書道芸術院



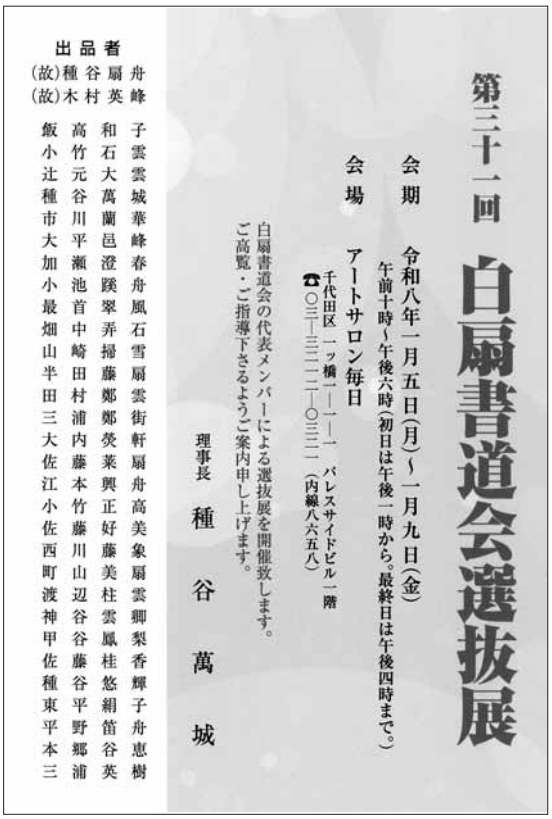
書道芸術誌及び書道芸術学生版購読について

本誌の購読中止を希望される場合には必ず、書道芸術院事務所までご連絡ください。

連絡がないと本誌は3ヶ月間は、そのまま送られていくことになります。誌代が未納入の場合でも扱いは同じです。必ず中止の連絡をお願い致します。

また、中止によって誌代に残金が生じた場合は返金を致します。この場合、返金額が3000円に満たない時は同額分の切手をお送りしております。あわせてご了承ください。

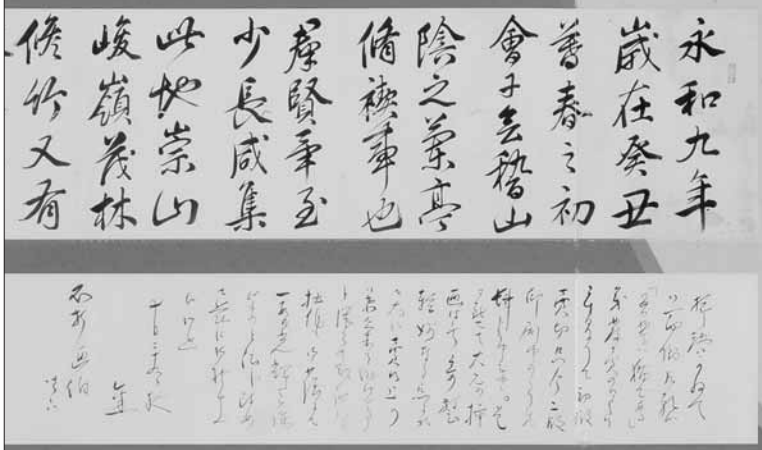
よろしくお願いいたします。



書道博物館 企画展

江戸・明治の美術

―根岸のたからもの―



2025年

7月19日㊏～12月14日㊐

前期 7月19日(土)～ 9月28日(日)
後期 10月 9日(木)～12月14日(日)

開館時間 9：30～16：30（入館は閉館の30分前まで）

休館日 月曜日、7月22日(火)、8月12日(火)、9月16日(火)
10月14日(火)、11月4日(火)、11月25日(火)
※ただし、7月21日(月・祝)、8月11日(月・祝)、9月15日(月・祝)、10月13日(月・祝)、11月3日(月・祝)、11月24日(月・振休)は開館

観覧料 一　般・大学生 500円（300円）
高・中・小学生 250円（150円）
（　）内は20名以上の団体料金

- 身体障がい者手帳、療育手帳、精神障がい者保健福祉手帳、特定疾患医療受給者証の提示者とその介護者は無料です。
- 毎週土曜日は台東区在住・在学の小、中学生とその引率者が無料です。

[図版] 「東海道五十三次」(保永堂版)　歌川広重(初代)筆　江戸・19世紀　通期展示
行書蘭亭序巻　頼山陽筆　江戸・18～19世紀　前期展示
漱石居士書翰(挿絵礼状)　夏目漱石筆　明治38年(1905)　前期展示
(すべて台東区立書道博物館蔵)

- JR鶯谷駅北口より徒歩5分
- 台東区循環バス「北めぐりん」⑪書道博物館より徒歩3分

※駐車場はありません

書道博物館
CALLIGRAPHY MUSEUM

[主催] (公財)台東区芸術文化財団
[住所] 〒110-0003　東京都台東区根岸2－10－4
[電話] 03(3872)2645
[ウェブサイト] https://www.taitogeibun.net/shodou/

次回特別展のご案内
明末清初の書画(仮称)
連携企画第23弾！　2026年1月4日(日)～3月22日(日)

第79回 書 道 芸 術 院 展

併催＝第77回全国学生書道展

会　期：令和８年２月５日(木)～11日(水・祝)
9：30～17：30（入場は30分前まで）※11日(水･祝)は14：00閉室

会　場：東京都美術館（上野公園内）
〒110－0007 東京都台東区上野公園８－36　TEL 03－3823－6921(代表)

主　催：公益財団法人 書道芸術院

後　援：文化庁・公益社団法人 全日本書道連盟・毎日新聞社
一般財団法人 毎日書道会

《表　彰　式》令和８年２月７日(土) 15：30～（受付15：00～）
ヒューリックホール（浅草橋）

《出品者の集い》令和８年２月７日(土) 17：30～
ヒューリックホール（浅草橋）

《作品解説会》東京都美術館展示会場
- **令和８年２月８日(日) 11：00～**　秋季展前衛書展出品作家研究会
  14：00～　各部作品研究会
- **令和８年２月11日(水・祝) 10：00～**　作品研究会

《席上揮毫会》東京都美術館展示会場
- **令和８年２月８日(日) 10：00～**

※第79回書道芸術院展"出品者の集い"(懇親会)について

書道芸術術院展の開催が近づいてまいりました。今回は"出品者の集い"となり、表彰式と同じ会場で行うため人数を制限いたします。表彰式に出席された方が参加できます。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

なお、表彰式では春華賞、大賞、準大賞、白雪紅梅賞、俊英賞、院賞、毎日新聞社賞、準特選の皆様と、特選、秀作、佳作、褒状の代表の方に賞状を授与いたします。

第77回 全国学生書道展

● 全国学生書道展指導者作品展示

会　期：令和８年２月５日(木)～11日(水・祝)
９：30～17：30（入場は30分前まで）　※11日(水･祝)は14：00閉室

会　場：東京都美術館（上野公園内）学生展展示２階 第２展示室
〒110－0007 東京都台東区上野公園８－36　TEL 03－3823－6921(代表)

主　催：公益財団法人 書道芸術院

後　援：文化庁・公益社団法人 全日本書道連盟・毎日新聞社
一般財団法人 毎日書道会・毎日小学生新聞

《席上揮毫会》令和８年２月７日(土)　10：00～
学生展展示会場

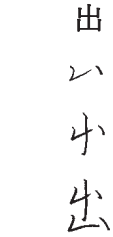
《表 彰 式》令和８年２月７日(土)　13：00～（受付12：00～）
ヒューリックホール（浅草橋）

《ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ》令和８年２月８日(日)　13：00～
学生展展示会場

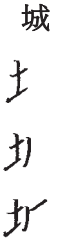
◎8ページ「古典鑑賞」の参考資料

課題の中のいくつかの字について例として筆順を示しましたので、ご確認願います。

出



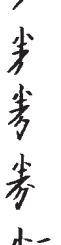
城



または

有

類



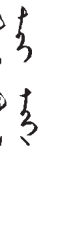
罪

儻

非

繇

情

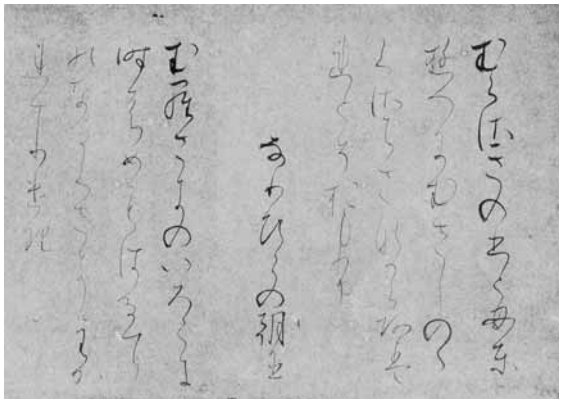


予告　2026・1月号（777）の「古典鑑賞」・「古筆鑑賞」の課題

（2月15日締切）

古筆鑑賞 ㉖②

曼殊院本古今集（伝 藤原行成筆）①



（掲載図版・70%に縮小）

〈よみ〉

むらさきのひともと（紫の一本）
ゆへにむさしのゝ（ゆへに武蔵野）
くさはさながらあは（草はさながらあは）
れとぞおもふ（れとぞ思ふ）

なりひらの朝臣（業平朝臣）
むらさきのいろこき（紫の色こき）
時はめもはるに（時は芽も春に）
のなるくさもわか（野なる草も若）
れざりけり（れざりけり）

古典鑑賞 ㊽⑧

蘇慈墓誌銘（隋 603年）①

大隋使持節大将軍工／兵二部尚書司農太府／卿太子左右衛率右庶／子洪吉江虔饒袁撫七／州諸軍事洪州捻管安

（掲載図版・70%に縮小）

《院関係出品者》

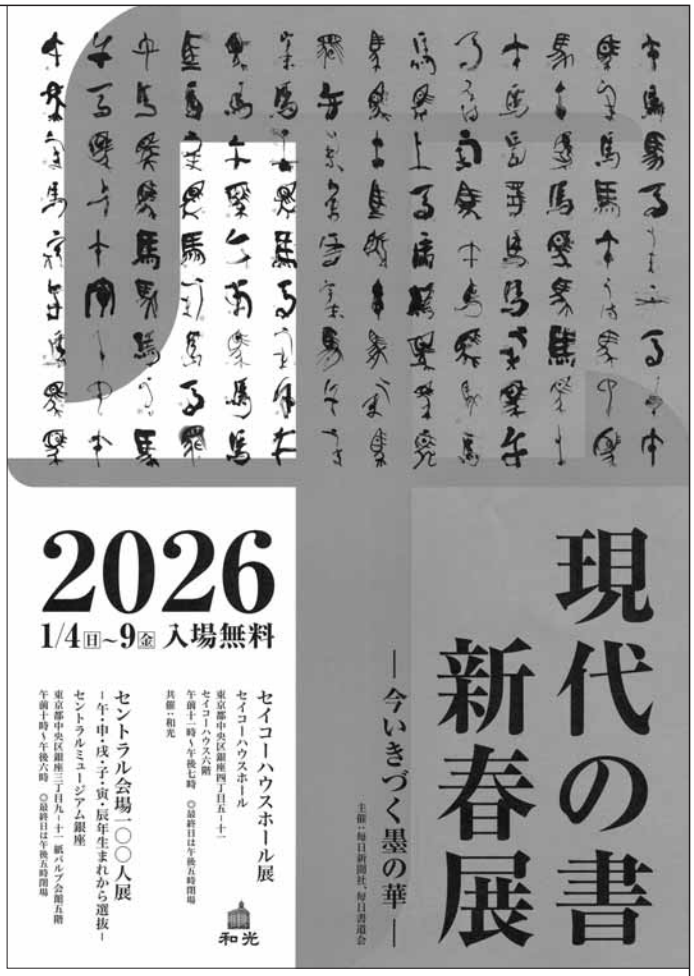
◇セイコーハウスホール展

辻元　大雲
下谷　洋子
小竹　石雲

◇セントラル会場100人展

京　　絹子
川島　舟錦
小林　琴水
名越　蒼竹
畑中　弄石
半田　藤扇
真下　京子

（50音順）



《セイコーハウスホール展》

会期＝2026年１月４日(日)～９日(金)
午前11時～午後７時
（最終日は午後５時閉場）

《セントラル会場100人展》

会期＝2026年１月４日(日)～９日(金)
午前10時～午後６時
（最終日は午後５時閉場）

◇席上揮毫会

小田川大岳(近代詩文書)　**齊藤恭平**(大字書)　**中嶋玉華**(かな)
日時：1月4日(日) 午前11時30分から
場所：フェニックスプラザ(紙パルプ会館3階)

◇スペシャルトーク

下谷洋子(本展実行委員長)　**山中翠谷**(第76回毎日書道展文部科学大臣賞受賞)
日時：1月4日(日) 午後3時から（着席150席、当日先着順）
場所：フェニックスプラザ(紙パルプ会館3階)

◇「セントラル会場100人展」作品解説

1月5日(月) 午後1時＝**赤冨士北祭**(かな)　**池谷天外**(大字書)　**熊谷咸集**(漢字)
1月9日(金) 午後1時＝**安藤尤京**(刻字)　**大多和玉祥**(近代詩文書)
場所：セントラルミュージアム銀座(紙パルプ会館5階)

昭和五十年一月二十七日第三種郵便物認可
令和七年十一月二十五日　印刷
令和七年十二月　一　日　発行
（毎月一回一日発行）　書道芸術　第七七六号

競書出品規定

※規定部・自由部・研究部は、月別出品券を貼ったバーコード出品券を、作品の右下にヤマトのりで貼る。

※特別研究部は所定の出品券を、作品の右下にヤマトのりで貼る。

※半紙は縦使用に限る。

※落款（印のみも可）を入れる。

●出品資格　高校生以上

●月例競書作品出品の心得

1、締切日必着厳守
2、月別出品券を貼付していないバーコード出品券は認めない
3、月別出品券のコピーは不可
4、㈠初めて出品のときは「10級」と書く
㈡「課題違反」・「落款なし」等の違反作品は審査対象外とし、違反作品として氏名を掲載します。

※▲印段級誤記入
※△印作品審査後着

＊段級欄に記入する数字は、級位は算用数字1、2、3…段位は漢数字　初、二、三…で書いてください。
＊級位の方は、出品する月の本誌（最新号）で成績を調査確認の上、級を記入してください。確認できないときは、現在級を書き「未調査」と明記してください。

●規定部（自分の段・級で出品）

部門	段級位	用紙	書体・内容
漢字	初段以上	半紙	創作（書体自由）
漢字	秀級以下	半紙	創作（楷書）
かな	初段以上	半紙	創作
かな	秀級以下	半紙たて½	臨書
漢字条幅	初段以上	半切	創作（書体自由）
漢字条幅	秀級以下	半切	創作（書体自由）
かな条幅	10師～級範	半切	創作
ペン字	10師～級範	はがきサイズ	書体自由

・かな、かな条幅部門は料紙使用可。

●自由部（段、級によらないもの）

部門	用紙	内容
前衛書	半紙	創作
現代詩文書	半紙	創作
実用書	左記	書体自由

〈実用書部門・出品規定〉
○用紙　半紙横½（24.5×16.5㎝）、B5コピー用紙（26×18.1㎝）も可。
○課題　掲載語句を書く。
○小筆、筆ペン、サインペンも可。

●特別研究部

・大作または小品のどちらかに1点出品する。
・詳細は出品票の掲載ページを参照のこと。

●研究部（掲載課題の臨書）

部門	用紙	内容
漢字研究	半紙	文字数自由
かな研究	半紙	歌1首以上を書く、全文も可

・掲載部分以外の箇所は不可。
・かな研究部門は料紙使用可。料紙貼りつけも可。

☆審査会員の部について

・「漢字部門初段以上」と「かな部門初段以上」に審査会員のみが出品できる部を設ける。
・バーコード出品券の段級欄に「審査会員」と記入する。
・通常の競書との重複出品は不可。

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は

〒101-0031
東京都千代田区
東神田1―16―7
東神田プラザビル3階
公益財団法人 書道芸術院
電話（03）3862―1954
FAX（03）3862―1957

ご連絡等は月曜日～金曜日 10時～16時 の間にお願いいたします。（土・日・祝日は休み）

送料

1か月の購読部数が1部～9部までの1回の郵送料

1部	79円
2部	95円
3部	103円
4部	119円
5部	135円
6部	151円
7部	167円
8部	183円
9部	199円

10部以上は送料免除

令和七年十一月二十五日印刷
令和七年十二月　一　日発行
定価　1部　七五〇円
編集兼発行人　下谷洋子
データ処理　株式会社リンクス
印刷　小沢写真印刷株式会社
発行所　公益財団法人 書道芸術院
〒101-0031
東京都千代田区東神田1-16-7
東神田プラザビル3階
電話（03）3862-1954
FAX（03）3862-1957
振替　00150-4-135058
ホームページアドレス http://www.lincs.co.jp/shogei/